2026年度 第6回（11月）北辰テスト対策 予想問題　解答・解説

国語

1　問1（4点）

イ

①の直後に根拠がある。「ポイントガードの座を争っているのは、幼なじみのソウタだった。新人戦のスタメンは、あと二週間後に発表される」とあり、スタメン発表が近づく中での焦りが描かれている。

・イ「スタメンの座をソウタに争われていることに焦りを感じ、落ち着かない気持ちになっている」が正答

・ア「バスケットボール自体をやめたい」は本文にない

・ウ「コーチの指示が不公平」は本文にない

・エ「別のポジションに移りたい」は本文にない

採点ポイント: 焦りの対象が「スタメンの座を争っていること」にあると読み取れているか。

1　問2（4点）

イ

②の直後、ハルトは「別に、迷ってなんかいない」と言いながらも、「自分の声が揺れているのがわかった」とあり、さらに「わずかな迷いが生まれていることに、心当たりがあった」と続く。指摘が図星でありながら、素直に認められずにいる様子が描かれている。

・イ「指摘が的を射ていると感じつつも、素直には認めたくなくて、言葉に詰まっている」が正答

・ア「心当たりがなく」は本文と矛盾（「心当たりがあった」とある）

・ウ「腹を立て、言い返そうとしている」は本文にない（反論ではなく否定の言葉を口にしているだけ）

・エ「気にせず聞き流そうとしている」は本文にない（声が揺れていることからも気にしている）

採点ポイント:「否定の言葉」と「本当は図星だと分かっている内心」のずれを読み取れているか。

1　問3（6点）

(例) 自分がスタメンでなくてもチームが勝つために果たせる役割がある（30字）

正答例:

・(例1) 自分がスタメンでなくてもチームが勝つために果たせる役割がある（30字）

・(例2) 勝つことだけにこだわらず、別の形でチームを支える役割もある（29字）

根拠: ③の発言全体から、スタメン争いに勝つことだけにこだわらず、別の役割を担うことへの前向きな思いが読み取れる。

採点基準:

要素	配点内訳	判定基準
①「勝つ」が使えている	1点	指定語必須
②「役割」が使えている	1点	指定語必須
③ スタメン（勝敗）にこだわらない内容が示されている	2点	「選ばれなくても」「勝つことだけでなく」等
④ 別の形でチームに関わる・果たせる役割があるという帰結が示されている	1点	「役割がある」「支える」等
⑤ 25〜35字の字数を守っている	1点	逸脱は減点

指定語の使用順序は問わない。

1　問4（4点）

イ

④の直前で、ソウタが「スタメンに選ばれなくても…それもいいな」と語り、ハルトはその考え方に驚いている。勝敗だけにこだわらない姿勢をソウタも持っていたことを知り、気持ちの重さが軽くなったと読み取れる。

・イ「ソウタも自分と同じように、勝敗だけでなくチームへの関わり方を考えていたことを知り、気持ちが軽くなっている」が正答

・ア「本気で争う気がない」は言い過ぎ（ソウタは直後も「どっちがスタメンになっても」と争い自体は続けている）

・ウ「仲直りできたことだけに安心」は焦点がずれている

・エ「自分の責任がなくなった」は本文にない

採点ポイント:「勝敗にこだわらない考え方を知った」ことが力の抜けた理由だと捉えられているか。

1　問5（5点）

ア

⑤の直前、ハルトは「一対一でも、これからは、迷わず仕掛ける」と決意し、実際に一対一でソウタをかわしてパスを決め、コーチにほめられている。スタメンが確定したわけではないが、迷いを乗り越えて動けたことへの手応えが描かれている。

・ア「スタメンに決まったわけではないが、迷わず仕掛けられたことに手応えを感じている」が正答

・イ「気が抜けている」は本文にない（足が弾んでいるのは充実感の表れ）

・ウ「完全に勝ったという確信」は言い過ぎ（スタメンはまだ発表されていない）

・エ「練習しなくてもよい」は本文にない

採点ポイント:「勝敗の結果」ではなく「迷いを越えて動けた手応え」に心情の核があることを区別できているか。

1　問6（5点）

ウ・オ

・ア: ハルトとソウタの会話のやり取り（「お前、一対一になると急に迷うよな」「俺、スタメンに選ばれなくても…」等）を通して、互いの本音が明らかになっていく構成→適切

・イ:「胸の奥から押し上がってくる」は焦りという感情を身体感覚で表した比喩的表現→適切

・ウ: 本文には「」でくくられた会話文が多数あり、地の文だけで構成されているわけではない→不適切→正答

・エ:「気楽な係狙いとかじゃない」（ハルト）と「それもいいな」（ソウタ）という言葉が響き合い、二人が勝敗以外の関わり方を認め合う関係に変化したことを印象づけている→適切

・オ: 本文は、練習中の場面・放課後の会話・翌日の練習という複数の場面で構成されており、試合当日の様子は描かれていない→不適切→正答

採点ポイント: ウ・オの2つを両方選んで正答（5点）。過不足があれば0点（部分点なし）。

2　問1(1)（2点）

えんかつ

円滑＝物事がすらすらと進むこと。

採点ポイント:「えんかつ」以外の読みは不正解。

2　問1(2)（2点）

おもむ（く）

赴く＝ある場所へ向かって行く。

採点ポイント: 送りがな「く」まで含めて「おもむく」。音読みの「フ（く）」等の誤読に注意。

2　問1(3)（2点）

尊重

採点ポイント: 「尊」の字形（点の位置）の書き誤りに注意。

2　問1(4)（2点）

警戒

採点ポイント: 同音の「軽快」との書き誤りに注意（ここでは「用心する」意味の「警戒」が正しい）。

2　問2(1)（2点）

ア

「山田さんの意見をシジする」＝支持（支）。「意見」は賛成して後押しする対象なので「支持」であり、「指示（指図する）」では意味が通らない。ア支援（支）✓／イ指示（指）／ウ指標（指）／エ試作（試）。イは「シジ」と読みが同じだが漢字は「指示」であり、「支持」とは異なる。

採点ポイント: 読みが同じ「しじ」でも、漢字が異なる同音異義語（指示／支持）に惑わされず、「支」を含む語を選べているか。

2　問2(2)（2点）

ア

「主張をキョウチョウする」＝強調（強）。ア強化（強）✓／イ共通（共）／ウ協力（協）／エ興味（興）。すべて「キョウ」と読むが、「強調」と同じ漢字を含むのはアのみ。

採点ポイント: 同音の別漢字（共／協／興）を音だけで選ばず、意味から書き分けられるか。

2　問3（3点）

ア

副詞は活用せず、主に用言（動詞・形容詞・形容動詞）を修飾する。

・ア 「ゆっくり」＝活用せず、動詞「話す」を修飾する→副詞 ✓

・イ 「静かな」＝「静かだ」の活用形で、体言「教室」を修飾する→形容動詞

・ウ 「小さな」＝活用せず、体言「声」を修飾する→連体詞

・エ 「美しい」＝「美しかった」等に活用する→形容詞

採点ポイント: 「用言を修飾するか、体言を修飾するか」という働きの違いで、副詞・連体詞・形容動詞を区別できているか。

2　問4（3点）

イ

助動詞の「ない」は用言の未然形に接続し、「ぬ」に置き換えられる。形容詞の「ない」は名詞＋「が」のあとに単独で使われ、「ぬ」には置き換えられない。

・ア 「解け（動詞「解ける」の未然形）＋ない」→「解けぬ」と置き換えられる→助動詞
・イ 「時間が（名詞＋格助詞）＋ない」→「ぬ」に置き換えられない→形容詞 ✓
・ウ 「食べ（動詞「食べる」の未然形）＋ない」→「食べぬ」と置き換えられる→助動詞
・エ 「できてい（「い」は補助動詞「いる」の未然形）＋ない」→「できていぬ」と置き換えられる→助動詞

※「難しくない」のように形容詞の連用形「〜く」に続く「ない」は補助形容詞で、助動詞ではない（「難しくぬ」とは言えない）。

採点ポイント: 「名詞＋が」のあとに単独で続く「ない」が形容詞であるという識別の基本を押さえられているか。

2　問5（3点）

ア

「弘法にも筆の誤り」＝どんなに優れた人でも、時には失敗することがあるという意味。普段は正確な選手が大事な場面でミスをした、という文脈に合う→正答。

・イ「蒔かぬ種は生えぬ」＝何もしなければ良い結果は得られないこと
・ウ「二度あることは三度ある」＝同じことが繰り返し起こりやすいこと
・エ「火のない所に煙は立たぬ」＝何の原因もなくうわさは立たないこと

採点ポイント: 「優れた人でも失敗する」という文脈に合うことわざを選べているか。

2　問6（2点）

イ

「板につく」＝経験を積んで、その役割や仕事がよく似合うようになること。何度も練習を繰り返し、キャプテンらしい指示の出し方が身についた、という文脈に合う→正答。

・ア「腹をくくる」＝覚悟を決めること
・ウ「図に乗る」＝得意になってつけあがること
・エ「肩を落とす」＝落胆すること

採点ポイント: 「経験を積んで役割が似合うようになる」という文脈との一致。

2　問7(1)（3点）

ア

空欄Ⅰは「(自分たちが) 困っている来場者に〔Ⅰ〕」＝自分たちの動作を、相手への敬意をこめて表す謙譲表現が必要。

・ア 「声をかけてさしあげる」＝自分たちの動作を、相手の利益になる行為として謙譲的に表す→正答
・イ 「声をかけていらっしゃる」＝尊敬語。自分たちの動作に使うのは誤り
・ウ 「声をかけてくださる」＝相手が自分たちにする動作に使う表現。ここでは主体が逆
・エ 「声をおかけになる」＝尊敬語。自分たちの動作に使うのは誤り

採点ポイント: 自分（たち）の動作には謙譲語、相手（来場者）の動作には尊敬語を使うという基本の区別ができているか。

2　問7(2)（2点）

ア

山本さんの「パンフレットを配りながら案内する」という提案に対し、小林さんは「困っている方には声をかけた方がいい」と付け加えており、提案をより来場者に寄り添ったものにする視点を加えている。

・ア「山本さんの提案に対して、より来場者に寄り添うための視点（声かけ）を加えている」→正答
・イ「そのまま否定し、まったく別の企画を提案」は本文にない
・ウ「発言を無視して」は事実と反する
・エ「強引に結論を出している」は事実と反する

採点ポイント: 出された提案を否定せずに補強する発言と、提案の否定・無視を区別できているか。

3　問1（4点）

イ

①の直後に「話の切れ目でうなずくだけでなく、話の途中で『それで？』と短く問いかけることで、聞き手は話し手に『続きを聞きたい』という気持ちを伝えている」とある。

・イ「話の切れ目や途中での反応の仕方によって、聞き手の注意深さが示されるということ」が正答
・ア「声の大きさで性格が判断できる」は本文にない
・ウ「回数が多いほど賛成している」は本文にない
・エ「速さで年齢がわかる」は本文にない

採点ポイント:「タイミング（反応の仕方）」が「注意深さ」の表れであるという対応を正確に選べているか。

3　問2（4点）

ア

②の直後に「あいづちをまったく返さない聞き手の前では、話し手は言葉を選びすぎたり、話を早めに切り上げたりすることがある」とある。

・ア「話し手が、聞き手の関心の低さを感じ取り、話し方が慎重になったり話を早めに切り上げたりすることがあること」が正答
・イ「誤解が生まれる」は本文にない
・ウ「スピードを上げすぎる」は本文にない（本文は話すペースが乱れる、言葉を選びすぎる等の方向）
・エ「会話そのものが成立しなくなる」は言い過ぎ（本文は話しづらくなる程度の表現）

採点ポイント: ②の段落の話題（話し手の話しやすさへの影響）に対応する問題点を選べているか。

3　問3（6点）

(例) 話し手に安心感を与えながら、会話全体のテンポを整えている（28字）

正答例:

・(例1) 話し手に安心感を与えながら、会話全体のテンポを整えている（28字）

・(例2) 話し手を安心させて率直に話せるようにし、会話のテンポを整える（30字）

根拠: ②段落（安心感を与え、率直に話せるようにする）と、本文全体で述べられる「会話のテンポを整える」働きの二つをまとめる。

採点基準:

要素	配点内訳	判定基準
①「安心」が使えている	1点	指定語必須
②「テンポ」が使えている	1点	指定語必須
③ 話し手を安心させる（安心感を与える）という内容が示されている	2点	「安心感を与える」等
④ 会話のテンポを整える（乱れを防ぐ）という内容が示されている	1点	「テンポを整える」等
⑤ 25〜35字の字数を守っている	1点	逸脱は減点

指定語の使用順序は問わない。

3　問4（4点）

ア

④の直後に「あいづちもまた、話し手の気持ちを支え、会話のテンポを整え、人と人のつながりを保っている、コミュニケーションの一部なのである」と述べられている。

・ア が正答

・イ「集中力が低下する」は本文にない

・ウ「回数を数えることで善し悪しを判定」は本文にない

・エ「方言の違いが明確になる」は本文にない

採点ポイント: ④の直後の一文を根拠として正確に対応づけられているか。

3　問5（5点）

イ

「適切でないもの」を選ぶ問題。

・ア: 冒頭「『あいづち』と聞くと……思う人が多いだろう」という一般的な思い込みを示し、それをくつがえす展開になっている→適切

・イ: 本文には専門家への取材記録は登場しない（「聞く技術として指導する教育の試みも増えている」という一般的な傾向の紹介があるのみ）→不適切→正答

・ウ: あいづちのタイミング（①）や安心感（②）の例で、あいづちの役割を説明している→適切

・エ:「あいづちを打てば打つほどよいという話ではない」と限界にも触れつつ、単純な見方を広げることの大切さを述べている→適切

採点ポイント:「具体例や一般的な傾向の紹介がある」ことと「専門家への取材記録で補強している」ことの区別。

3　問6（5点）

イ

本文全体の主旨:

・あいづち＝ただの反応という思い込みをくつがえし、話し手を安心させ会話のテンポを整える役割を紹介

・一方で、打ちすぎると話の腰を折ることもあるため、程度には注意が必要

・結論:「あいづち＝ただうなずくだけの行為」という単純な見方をやめ、会話を支える働きとして見直すことが大切

・イ「話し手を安心させたり会話のテンポを整えたりする役割を持つ一方で、打ちすぎると話の腰を折ることもあるため、打ち方を工夫する必要がある」＝結論と一致→正答

・ア「必ずうまくいく」は言い過ぎ（本文にない断定）

・ウ「重要ではない」は本文の主旨と正反対

・エ「誰でも完璧な会話ができる」は本文にない

採点ポイント: 役割と限界、両方に目を配った筆者の均衡のとれた主張を捉えているか。

4　問1（4点）

うれしくおもいて

「思ひて」の「ひ」は語中のハ行。歴史的仮名遣いでは、語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は現代仮名遣いで「わ・い・う・え・お」に直す。

・思（おも）ひて → おもいて

採点ポイント: すべてひらがなで「うれしくおもいて」と書けて正答。「うれしくおもひて」（直し忘れ）は不正解。

4　問2（4点）

イ

若者は、主人が枝を見てうれしそうにつぶやいている様子を見たあと、「年ごとにかく多く実をつけ候ふは、いかなるゆゑにか」と尋ねている。これは、毎年多くの実をつける柿の木を不思議に思い、理由を知りたいという素朴な疑問から生じた問いである。

・イ が正答

・ア「収穫を予測しようとした」は本文にない

・ウ「自分のものにしたい」は本文にない

・エ「腹を立て、言い返そうとした」は本文にない（「問ふ」とあるのみで、対立的な描写はない）

採点ポイント: 若者の問いが、素朴な疑問から生じていることを読み取れているか。

4　問3（4点）

(例) 多い年と少ない年が交互に訪れる（15字）

正答例:

・(例1) 多い年と少ない年が交互に訪れる（15字）

・(例2) 実の多い年の次には少ない年が来る（16字）

根拠: ③「この木は、年により実の多き少なきあり。多き年の次には、少なき年の来ることぞ、世の常なれば」。実の多い年と少ない年が交互に訪れるのが世の常であるという考えが、主の語りの理由になっている。

採点基準:

要素	配点内訳	判定基準
① 実の多い年と少ない年が交互に訪れる（多い年の次に少ない年が来る）という内容が示されている	3点	「交互に」「次には少ない年が来る」等
② 現代語として自然で、10〜20字の字数を守っている	1点	古語の残存・字数逸脱は減点

4　問4（4点）

イ

④「人の世もまた、かくのごとし。よきことの続くときも、悪きことの来たるを忘れずして、心を平らかに保つこそ、まことの知恵なれ」をそのまま言い換えた選択肢を選ぶ。

・イ が正答

・ア「周りの人に自慢するべき」は本文にない

・ウ「何も行動せずじっと待つ」は本文にない（「心を平らかに保つ」という心構えの話であり、無行動を勧めているわけではない）

・エ「実の数を正確に数えることが大切」は本文の主題ではない

採点ポイント: ④の一文を正確に言い換えた選択肢を、本文にない要素を含む他の選択肢と区別できているか。